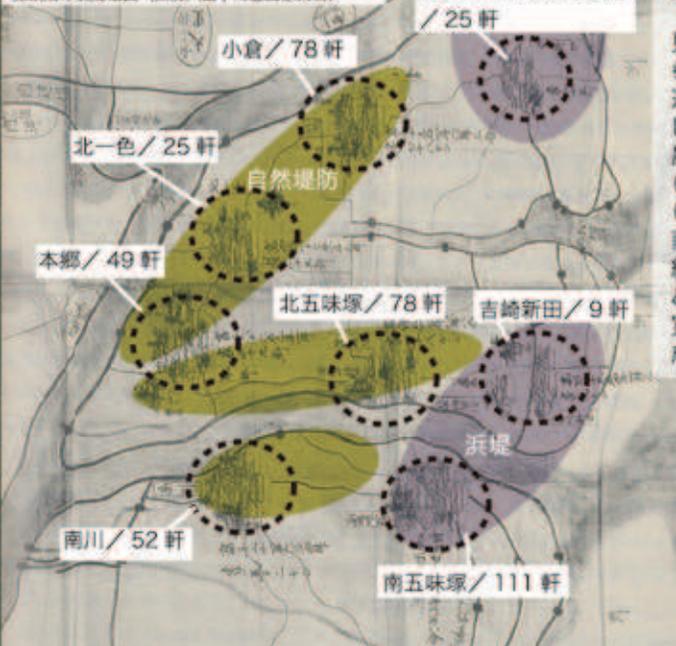


# ◆◆ 楠のまちの変遷 ◆◆

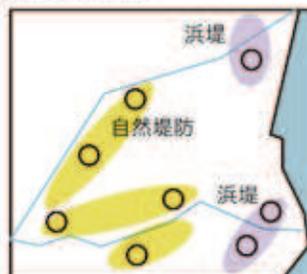
## 寛政 (1789-1800年)

寛政期の橋郷絵図 (四郷八王子町豊田家文書)



### <自然堤防・浜堤の上に形成された農村集落>

楠は三角州に位置し、頻繁に洪水に見舞われました。反面、肥沃な大地が得られ、農耕地の9割が水田地帯として発達しました。海や鈴鹿川の土砂が堆積して形成された自然堤防・浜堤の上に農村集落が形成されました。文禄3年(1594年)の太閤検地では6つの村落(北一色、小倉、本郷、北五味塚、南川、南五味塚)が確認され、寛政期の橋郷絵図を見ると、丑ノ新田(小倉の枝郷)と吉崎新田が新たに加わっています。寛政期の家屋の合計は427軒です(平成16年では3945軒)。



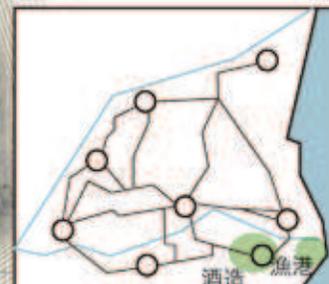
## 明治 (1890年)

明治23年測図「四日市町」国土地理院



<酒造業・漁業の始まり>  
明治22年に「楠村」が成立しました。この時代も農村集落が主ですが、酒造業が南五味塚の北部で、漁業が南五味塚の海岸部で発達しつつあります。

<公共交通>  
各村を結んでいた道路は、細く複雑に折れ曲がっていました。最寄りの鉄道は明治29年に開業した関西鉄道の河原田駅でした。



## 令和 (2020年)

空中写真 (令和2年12月)



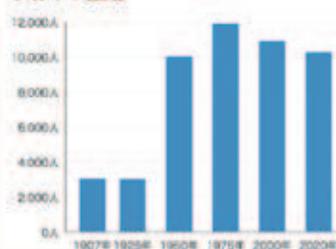
### <人口減少時代>

都市計画により土地利用が進み多くの住宅地ができましたが、楠地区でも近年では2008年の11,491人をピークに人口減少時代となり、各所で空き地が見られるようになってきました。

### 楠地区人口(各年10月)

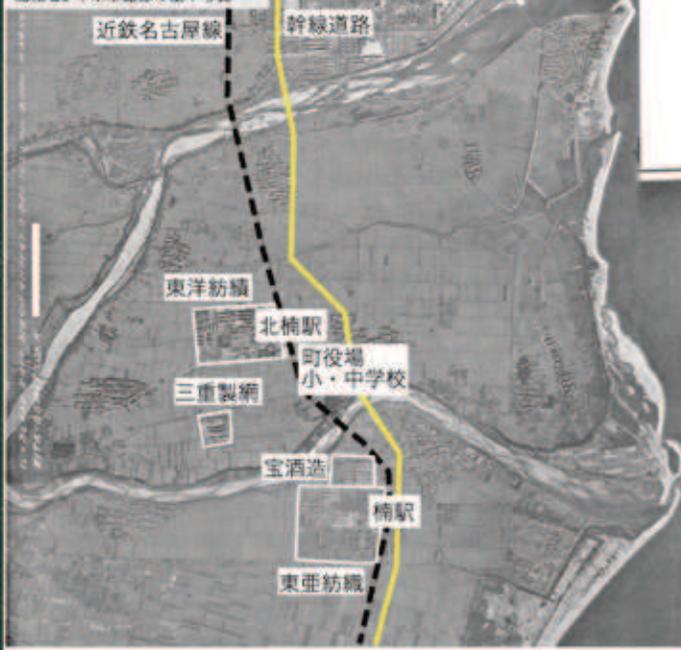
2015年 10,914人  
2020年 10,547人  
2022年 10,378人

### 人口の推移



## 昭和 (1950年)

昭和25年米軍撮影の空中写真



### <工業化と農業の共存>

昭和7年~13年に、4大工場(東洋紡績、三重製網、宝酒造、東亜紡織)の工場誘致に成功しました。楠は四日市に次ぐ第2位、三重県全体の10%の工場生産額を誇りました。

他の農村地域では以前からの水田地帯のまま、都市化は見られません。寄宿舍や社宅での集約的な生活が行われるため、繊維大工場の誘致は周辺を広く都市化するものではありませんでした。

